

## ● 事例 ●

## 地域貢献とゼミ活動

大河原 眞美

(高崎経済大学 地域政策学部長・教授)

## 一 はじめに

本稿では、学生の自主性や自立心を育てる取組みについて、高崎経済大学地域政策学部が実施している、ゼミ活動を通じての地域貢献から紹介したい。いくつかの事例を挙げる前に、背景の理解として、地域政策学部について簡単に述べる。

地域政策学部は、地方分権時代の地域リーダーを育成するために、全国に先駆けて一九九六年に設立された学部である。地域政策学科(定員一八〇人と専任教員二五人)からなる一学部一学科で始まった地域政策学部は、二〇〇〇

年に大学院地域政策研究科修士課程(定員二〇人)、二〇〇二年に大学院博士後期課程(定員五人)、二〇〇三年に地域づくり学科(一二〇人の定員増と専任教員一人増)、二〇〇六年には観光政策学科(一二〇人の定員増と専任教員一名増)と、一八歳人口が減少するなかで異例の組織拡充を行ってきた。現在では、三学科を有し、大学院博士後期課程まで完備し、学部と大学院が一体となって、「その研究・教育・地域貢献を通じて、多面的に地域を考え、かつ、内発的な地域づくりに参画し、地方分権時代を担う官民諸分野の人材育成」(学則第三条の三)に努めている。地域政策学部の学士力は「地域リーダーとしての問題解決能力」である。この学士力は「問題発見能力」「調査能力」

「コミュニケーション能力」「組織能力」「社会的責任能力」「政策立案能力」によって培われる。地域政策学部では、学士力を保証するための核として、ゼミナール（演習）を設けている。演習は必修で、少人数（ゼミ定員一人前後）教育を実践している。必修の演習に加えて卒業論文も必修四単位を課している。学生全員が卒業論文を合同発表会で報告することにより、学部としての共通の評価が保証されている。

ゼミを単位とする積極的な地域貢献の成果は、地域活性化に関わる「特色GP」「現代GP」の採択や、学生の地域貢献活動を競う英語プレゼンテーション大会（SIFE）の二年連続国内大会優勝、世界大会出場などの結果として現れている。また、高崎市、群馬県、湯沢市、草津市等の自治体との連携、内閣府地域再生推進室、文部科学省、国土交通省等の国の機関との連携、政策大学院大学や日本政策投資銀行等の他大学や民間企業との連携、さらに、高崎青年会議所や富岡元気塾などの市民レベルでの連携も行っている。

本稿では、まず、学生主体の事業として先駆的な「たかさき活性剤本舗」事業（横島ゼミ、原田ゼミ）を取り上げる。次に、大宮ゼミが中心に立ち上げた「若者社会活動支

援NPO法人 Design Networks Association (DNA)」の活動の中から、「ラジコム」事業と「ジヨブカフェ」事業について解説する。いずれも高崎市街地の活動なので、合併して高崎市となった地域のゼミ事業紹介として、旧榛名町の地域貢献事業（戸所ゼミ）と旧倉渕村に源を発し高崎市内を流れている烏川の調査研究事業（清水ゼミ）を紹介する。最後に、県外の地域貢献として長野県上田市のまちづくり提言事業（河藤ゼミ）についてふれる。

## 二 たかさき活性剤本舗

「たかさき活性剤本舗」というのは、高崎市が中心市街地活性化基本計画の作成に関わったのが発端となつて、高崎市を中心街の空き店舗を活用したゼミの学生による活性化事業である。

ゼミ生は、ゼミ担当教員の指導の下で、中心市街地を活性化すべく、住民へのヒアリング調査やイベント等を行った。学生のフィールドワークに基づいて、中心市街地の名店を紹介した『裏町まっぷ』の発行や、防犯防災訓練などのイベント参加や「ぐるりん」というコミュニケーションバスや高崎市の景観についての調査研究なども行い、それらの活

動を報告書として作成した。一連の作業で、ゼミ生の「問題発見能力」「調査能力」「社会的責任能力」を中心に「地域リーダーとしての問題解決能力」が養われてきた。

### 三 ラジコム

「ラジコム」は、学生が企画・運営しているラジオ高崎の番組である。ラジオ高崎は、一九九七年に開局した高崎市とその周辺を聴取エリアにしているコミュニティFMのラジオ局で、「ラジコム」は、このラジオ高崎開局二年後の一九九九年七月に、大学構内にラジオ高崎「高経大サテライト（ラジコム radi-com）」として開局している。ラジオ高崎には、「ラジコム」以外に、地域政策学部が関与している事業として、「ラジオゼミナール」と「まちづくり市民講座」がある。「ラジオゼミナール」は、地域政策学部の教員を中心にまちづくりをキーワードに専門的な話を毎週一五分間提供する番組である。一方、「まちづくり市民講座」は、市民との双方向の対話を実現するために「ラジオゼミナール」出演講師等が高崎経済大学のキャンパスなどで開催する講座である。

「ラジコム」では、学生の視点からまちづくりに関する情

報を提供している。例えば、市民が主体となって実施しているイベント（「高崎まつり」「高崎人情市」「野外音楽フェスティバル」「えびす講市」「高崎ふゆまつり」「高崎映画祭」など）について、学生も積極的に活動に関与し、その過程で運営している市民を取材している。毎週三〇分間の番組制作という事業を通して、「コミュニケーション能力」「社会的責任能力」「政策立案能力」を伸ばしている。

「ラジオゼミナール」と「ラジコム」事業は、二〇〇二年には文部科学省生涯学習支援モデル事業として認定されるところに、二〇〇四年事業の現代的教育ニーズ取組支援プログラム採択事業の柱の一つになった。「ラジコム」と「ラジオゼミナール」は、すっかり高崎市民の生活に定着している。

### 四 ジョブカフェ

二〇〇三年に国が策定した「若者自立・挑戦プラン」の群馬県若者就職支援センターの三つのサテライトの中心である高崎センターでは、ゼミ生が、ゼミ担当教員の指導の下で、若者受けのする空間づくりの提案などしている。このように、若者の感覚を生かしながら、常駐スタッフやカ

ウンセラの補佐的業務を行っている。以下に、大宮ゼミのHPからのゼミ生のコメントを引用する。

「ジヨブカフェの存在を知ってもらうために音楽イベントを開催しました。全て自分たちで企画して、当日までやりきったのでとっても大変でした！」

「ジヨブカフェ内の家具レイアウトやインテリアを変更したんですが、照明の色まで気を配るなど暖かく楽しい雰囲気になりました。以前より入りやすくなったと言われたときはうれしかったです。」「この春に、フリーペーパーを作りました。記事も写真撮影も、イラストまで自分たちで作ったんですよ。」

ジヨブカフェ担当のゼミ生は、授業時間外に受付や案内を行う。就職希望の若者だけでなく企業の人事部関係者の応対もあり、神経を使うことが多く、「コミュニケーション能力」や「社会的責任能力」を益々高めている。

## 五 旧榛名町支援

地域再生をテーマとしているゼミでは、まず、視察交流

を行い、次に、地域支援と地域調査の実施、その結果を調査研究の成果として報告するという一環の事業を実施している。一例として旧榛名町の地域支援がある。

視察交流としては、榛名神社・社家町の視察と現地討議・社家町活性化委員会の傍聴・地域住民との交流を行った。次の地域支援としては、榛名町役場・社家町主催の榛名神社における「幽玄の杜音楽会」や「今日とはとことん蕎麦食うべー・酒飲むべー 再び」の運営の支援や、榛名神社社家町の門前仲町観光案内所の運営と観光ガイドを五月から一月まで務めた。地域調査としては、「幽玄の杜音楽会」来聴者へのアンケート調査や、榛名神社・社家町来訪者への面接アンケート調査とその分析を行った。その調査結果は、榛名神社社家町・宿坊「般若坊」で「観光まちづくりシンポジウム・ワークシヨップ」の実施、その成果を報告書として作成した。現地にも度々も出向き、現地の人々の活動に関わり、その都度、意見を聞き、提言できる内容について検討を重ね、「問題発見能力」「調査能力」「政策立案能力」を育成した事例である。

## 六 『烏川お散歩マップ』

地球環境を研究しているゼミでは、『烏川お散歩マップ』を作成している。この冊子は、「学ぶ（烏川の形成・歴史・利用・生き物・自然）」「遊ぶ（クラインガルテン、倉瀬せせらぎ公園、倉賀野緑地、サイクリングロード等）」「食べる（はまゆう山荘、くちなし亭、高崎公園亭、サンレモ等）」から構成されており、巻末には烏川広域マップも掲載している。学生が烏川の地形や烏川に生息している魚類・鳥類・昆虫・植物、烏川流域の観光名所やレストランについて、足で調べて調査したものをまとめたもので、「問題発見能力」「調査能力」「社会的責任能力」を高めた。

## 七 上田市のまちづくり提言

産業を地域の視点から捉え、地域資源を活かしてその自律的な発展を促進するための方策をテーマとしている河藤ゼミは、二〇〇八年の上田市を研究対象とした。技術産業と観光産業が並存している上田市の産業の現状や課題について、事前学習とその報告会を行い、三日に亘る実地調査、

成果報告会、報告書の作成とした。報告書では、上田市に根付く既存機械産業と新規情報産業との連携、業種間同士の連携をサポートする機関が必要だと提言している。「調査能力」「政策立案能力」を伸ばした好例である。

## 八 おわりに

このように、地域政策学部では、学部の理念に基づいて、地域貢献を通じて地域づくりを担う人材育成するために、ゼミを中心に地域貢献の活動を実施している。学生が、地域貢献事業を通して「問題発見能力」「調査能力」「コミュニケーション能力」「組織能力」「社会的責任能力」「政策立案能力」を養って、「地域リーダー」としての問題解決能力」を学士力として身につけるように、ゼミ担当教員は工夫に工夫を重ねて指導にあたっている。